

7月に向けて

代表取締役 三田雅憲

今月は、高品質な眼鏡レンズを製造する、愛知県にある「東海光学」さんを紹介する記事からの抜粋です。

「東海光学さんは素材開発から設計、2次加工、販売までの一貫体制を敷き、世界90カ国に最新の眼鏡レンズを提供し続けている。受注から生産、出荷までを貫く基幹システムを自社開発し、工程と設備を密に連動させることで多品種少量生産と高品質化を両立している。「他社が『やらない・やりたくない・やれない』ものを商品化して、差別化したい」東海光学の生産部長は、自社の方針をこう説明する。例えば、ほこりや傷がつきにくい高機能のレンズについて、加工が難しく生産が困難と思われた時も、何年にもわたり挑戦を続け、商品化を実現した。コストだけでなく、付加価値の高い商品を作り続けることで世界から必要とされる企業になるのが目標だ。プラスチックレンズは成形から切削、研磨、染色、傷を防止するためのハードコート、反射を防止するためのマルチコート、仕上がり、検査、包装、玉型加工まで複数の工程を経てオーダーメイド品を完成させる。自動化も単純ではない。レンズは真円とは限らず、厚みや色も個体差がある。そのため、各工程での職人技や厳しい品質検査が不可欠だ。設備面でも妥協はない。既製の装置が品質基準に届かない場合は、装置メーカーと共同開発することで、他社が模倣できないように生産基盤を形成している。それでも、開発、営業、生産、総務(広報)各部門が組織のスピード感を生かして、世の中の変化に対して柔軟対応できる強みがある。また、グループではSDGs(持続可能な開発目標)も推進している。水資源の保護と化石燃料の削減を重視し、排水の高度処理・再利用や太陽光発電の導入拡大を推進する。また、目の健康を啓発するイベントなどを通じ地域連携を強化する。今後も自社でつくり、動かし、改善する生産ラインを要に競争力を生み出す考えだ。」とあります。

ブランド力の向上と他社との差別化の為に、受注から生産、出荷までを自社で貫く基幹システムを独自開発し、多品種生産と、高品質化の両立。また、他社がやらない・やりたくない・やれないものへの執着心が、差別化に大いに寄与していると感じました。当社においても先人・先哲が編み出した独自技術と少量生産や高品質そして、パテや硫化など他社がやらない物へのこだわりが、差別化を生んでいると思います。また、簡単に真似されない技術や仕組み(段取り)新しい仕上げ技術の開発、多能工化と適切な指示出しなどまだまだ道半ばな部分もありますが、社員諸君の前向きな特に、失敗を恐れないポジティブな発想が必ず道は開けると思います。

今期も2026年度の経営方針の元、また個人の目標と進んでいく道は皆さん険しいと思いますが、目標に到達した時の大きな喜びの為に地道で泥を捏ねる仕事にまい進しましょう。